



翠巒 Mini Press 第178号 2022/11/22

編集・発行 高崎高校新聞部

史上初、8連覇に向けて 実長の心境

高前定期戦は来年で77回を迎える。さらに高前は、現在7連覇中であり来年勝利すると史上初の8連覇となるため、大きな期待がかかっている。歴史を塗り替えるような年に新しく定期戦実行委員長（以下、実長）となった清水惺也くん（2の2）に話を聞いた。

「新たな実長としての意気込みは。まず、第76回定期戦が無事に終わり、勝利を収められたことにとっても安心している。しかし、長い時間その安心感に浸っているわけにはいかず、来年の定期戦に向けて気持ちを切り替える必要がある。今

の心境を簡単に言えば、「勝つ以外に道はない」といったところである。私には高前を勝利へ導くという使命がある。高前の屈強な健児達をまとめあげ、必ず前高に勝利するため、今は闘志を燃やしている。実長としてどのよう

に高前を引っ張っていくか。

実長としてやるべきことはたくさんあるが、「全てをまとめる」というのがもっとも大事なのだと思う。高前生全員の心を紅く染め、1人1人が力の限り戦う。そのような高前であるように、まずは私が本気で戦う姿を見せていきたいと思う。

8連覇に向けて。

8連覇という新記録に我々は挑むことになるが、正直私もかなりプレッシャーを感じている。定期戦始まって以来の新記録となると、実に3万人以上の期待がかかっている。と捉えることもできる。しかし、私は全員が8連覇というものには固執しすぎる必要はないのではないかと考える。プ

新実長の清水くん



校内ビブリオバトル本を「魅せる」

10月26日の放課後に本校の図書室で校内ビブリオバトルが行われた。ビブリオバトルとは、バトルが順に自分のおすすめの本を紹介していく、聞き手がその紹介を聞いて一番読みたかった本に投票し、勝者を決めるものである。去年は吉野貴翔くん（3の5）が優勝し、2連覇を遂げた。



本を紹介する大澤くん

「死亡フラグが立ちました！（著・七尾与史）」という本を紹介した大澤秀康くん（1の5）が優勝した。優勝した大澤くんは話を聞くと、「優勝できてとても嬉しい。この本は、二重にも三重にもかけられたトラップが痛快で、それらから必死に逃げようとする主人公たちの掛け合いがとても面白い。そんな本の魅力が少しでも伝わるように、とにかく楽しそうに語り、多くの人の印象に残るようにしよう」と意識していた。普段手に取らないジャンルの本と出会うことができたので、幸せな時間になった。機会があったら来年も参加し、吉野くんと同じく2連覇を目指したい」と語った。

また、県大会への意気込みを聞くと、「もっと本の魅力を伝え、誰もが興味を持ってくれるようなスピーチができるように頑張りたい。貴重な機会なので、とても楽しみにしたい」と述べた。（樋口）

レッシュャーが大きすぎて少し困るところがあると思う。8連覇を各々がどう捉えるにしても、高前生1人1人が目の前にある1勝を勝ち取るため、自分の力を振り絞る。そんな定期戦を行なえるようにしていこうと思う。

今年は何も悔しいことに、一般対抗では前高の勝利を許してしまっただけ。しかし、部対抗で大幅にリードしてくれたおかげで、今回の定期戦は辛うじて勝利を収めることができた。このことから、高前が前高に勝利するためには、一般対抗

今年は何も悔しいことに、一般対抗では前高の勝利を許してしまっただけ。しかし、部対抗で大幅にリードしてくれたおかげで、今回の定期戦は辛うじて勝利を収めることができた。このことから、高前が前高に勝利するためには、一般対抗

NOTE
昨年の12月25日に打ち上げられたジェイムズウェーブ宇宙望遠鏡（以下、JMSST）をご存知だろうか。ハッブル宇宙望遠鏡（以下、HST）の後継機とも言われており、より鮮明に星を捉えることで早くもその実力を世に示している▼JMSSTとHSTとで何が異なっているのだろうか。1つはそれぞれが観測する光の波長の違いだ。HSTが主に可視光を使っているのに対し、JMSSTは赤外線を用いる。光の波長は宇宙の膨張とともに引き伸ばされ、地球に届くまでに赤外線へと変化していく。そのため、赤外線領域で観測を行なうことで、より遠くの星を見ることが可能。しかし、ノイズとなる太陽や地球からの光が届かないようにしなければならぬ。そのため、JMSSTは2つの光を同時に遮断できる地点に送り込まれた▼より遠くの星を見ることができるといえることは、より昔の星を見ることができるといえることだ。JMSSTはビックバンから約2億年後以降に光り始めたとされているファーストスターを観測できると考えられている。また、画像をより鮮明に写すことができるため、現在に至るまでに撮影されてきた星についても何か新たな発見が得られるのではないかと期待されている▼最近では、量子力学に関する研究がノーベル物理学賞を受賞するなど、ミクロな視点での研究が脚光を浴びている。しかし、今後は宇宙関連などマクロな視点での研究も大いに注目されるだろう。（新井）
